



剣道部男子・団体戦、準優勝!

柔道部・個人で3名が筑前大会進出!

野球部2位以上が確定し、筑前大会進出!

陸上部・橋本さんと藤城さんが全国大会出場決まる!

7月1日(土)2日(日)に中体連宗像区大会が行われ熱戦が繰り広げられました。宗像区はどの種目もレベルが高く、筑前大会の出場枠に入るのは難しいことです。残念ながら敗退したチーム・個人もあります。特に9年生は、これまでの部活動やクラブで頑張り続け、習得したものを一生の宝にしてほしいと願っています。また、目標を進路等に切り替え今週からの学校生活を頑張してほしいと思います。

この2日間で、いくつかの部・個人で筑前大会の切符を手に入れました。剣道部男子は団体戦で準優勝です。柔道部は、階級別で高津千佳子さんが準優勝、山近笙真さんが準優勝、高口怜桜さんが優勝、それぞれ筑前地区大会の進出を決めています。野球部は、この2日間で決勝まで勝ち上がっているため、8日の決勝戦を待たずに筑前地区大会への進出が決まりました。

さらに、7月1日(土)2日(日)博多の森陸上競技場で開催された全日本中学校通信陸上競技大会福岡県大会で、陸上部の藤城泰河さんが200mで、橋本隆太郎さんが1500mでそれぞれ全国標準記録を突破し、8月末に愛媛県で行われる全国大会への出場が決まりました。

夏の大会に向けて～部活動・クラブチームの決意表明 Part7

【 家庭科部 平田 帆花さん 】

こんにちは、家庭科部です。家庭科部はこれから行われる河東コミセンのお祭りでの小物販売に向け、9年生は悔いの残らないように日々の活動一つ一つを大切にしていきます。7・8年生はこの先部活動で新しく入ってくる後輩を引っ張っていく立場になるので、お手本となれるように一人一人が自主的に行動していくことを目標に活動して行きたいと思います。そして、手に取ってくださる方に喜んでいただけるような小物を部員みんなで工夫し作っていきたいと思います。また、接客もすることになるので返事・反応を徹底して頑張ります。

【 水泳部 久保田 綺星さん 】

こんにちは。水泳部部長の久保田綺星です。水泳部の中体連の目標は、全員が7月21日に行われる筑前地区大会で6位以内に入り県大会に行くことです。また、県大会でも上位に入れるように頑張ります。そのために、残り少ない練習を一日一日大切にしながら取り組んでいきたいです。練習しているクラブチームはそれぞれ違いますが、中体連では河東中水泳部として一致団結して一生懸命泳ぎたいです。応援よろしくお祈いします。



愛知県の海岸でヤシの実を拾えるのはなぜだろう？ ～名も知らぬ 遠き島より 流れ寄る 椰子（ヤシ）の実一つ～

かつて、ラサール高校の社会科の入試で次のような問題が出題されました。

『詩人である島崎藤村の歌に「椰子（ヤシ）の実』というのがある。

名も知らぬ 遠き島より 流れ寄る 椰子の実一つ

この歌は、愛知県の渥美半島の先端に位置する伊良湖岬（いらごみさき）の海岸に流れ着く椰子（ヤシ）の実を歌ったものであるが、赤道付近の熱帯植物であるヤシの実がなぜ愛知県の海岸にあるのかを説明しなさい』

という問題でした。（解答は文末に載せます）



この問題を見た時、なんてオシャレな問題を出すのだろうと感心しました。

さて、この歌は昭和のはじめに発表されたものですが、島崎藤村（詩人）が親友の柳田国男（日本を代表する民俗学者）から聞いた話からつくられました。柳田国男は学生時代の夏休み、愛知県の伊良湖岬で一か月過ごします。海岸で流れ着いた椰子の実を見つけます。帰京後、柳田は島崎にその時のことをこう語って聞かせます。「風の強かった翌朝は〇〇に乗って幾年月の旅の果て、椰子の実が一つ、岬の流れから日本民族の故郷は南洋諸島だと確信した。」のちに、大民族学者となる柳田らしい感想です。

藤村は柳田から聞いたこの話をもとに、椰子の実の漂泊の旅に自分が故郷を離れ東京でさまよう憂い（うれい）を重ね、「椰子の実」の詩を詠んだといえます。

では、「椰子の実」の詩の全文を現代語訳で紹介します。

名前も知らない遠い島から 流れてきた椰子の実が一つ

故郷の岸をはなれて おまえはいったい何ヶ月の間 波に流されてきたのか

椰子の実が成っていた元の木は 今も生いしげっているのだろうか

枝は今もなお 影をつくっているのだろうか

わたしもまた 波の音を枕に 一人寂しく旅している

椰子の実を胸に当てれば さまよい歩く旅の憂い（うれい）が身に染みる

海に沈む夕日を見れば 故郷を思い あふれ落ちる涙

遠い旅路に思いを馳（は）せる いつの日か故郷に帰ろう

冒頭にあげたラサール高校の問題の解答は、「ヤシの実は黒潮（日本海流）にのって太平洋岸の愛知県の海岸にたどり着いた」ことを記述すればよいです。柳田国男の話の〇〇に入る言葉も「黒潮」です。熱帯植物のヤシの実が暖流に乗って日本に流れ着くという地理的事象を問う良問です。それ以上に、柳田と藤村のヤシの実から遠く南国に思いを寄せる感性とその共有に感動を覚えます。